

# 神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第116号

平成30年4月10日発行  
事務局：県立青少年センター  
科学部 科学支援課  
電話：045-263-4470

## 今年度も子ども達の科学体験支援を！

会員の皆様、新年度(平成30年度)がスタートしました。子ども達にとっては小学校に入学したり、進級したり、また、中高生にとっては将来の進路を改めて考えたり…といった節目の時期です。そんな子ども達のために、科学体験への支援という側面から子ども達の健やかな成長を願い、今年度も「神奈川県青少年科学体験活動推進協議会」として活動を進めていきましょう。ご協力よろしくお願いいたします。

漢字では土筆。「つくし」です。(春3月、事務局撮影)→



### 新会長あいさつ

会員の皆様方におかれましては、日ごろから県立青少年センター事業へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この4月から県立青少年センター館長に就任しました南雲(なぐも)正二と申します。この度、県内の多くの実績ある素晴らしい団体が会員となられている協議会の会長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。



当協議会の事務局がある青少年センターは昭和37年に開館し、プラネタリウム、天体観測ドームや50種類以上の体験型科学展示を備えた、日本国内における先端科学の施設としてスタートしました(当時、プラネタリウムは日本に5つのみ)。北は北海道から南は沖縄まで、日本全国から視察が絶えず、また、県内の中学2年生が全員「1日青少年センター」という行事のために来館し、理科をはじめとする様々な体験学習をして過ごしました。さらに、県内の子ども達がお弁当を持参して1日中遊べる施設でもあり、神奈川の青少年科学体験への啓発拠

点・センターとしての機能を担ってきました。

平成17年の耐震化工事のためプラネタリウム、天体観測ドーム、科学展示はすべて撤去されましたが、翌年4月に当協議会が発足し(科学部が事務局となり)神奈川県の青少年科学体験活動の拠点として再スタートをきりました。

そして今年度は、本県施策によるセンター機能の充実強化のため、事務局の科学部が横浜(紅葉坂)から県央地区に移転する予定です。詳細は今後お知らせしますが、県内各地からアクセスしやすくなりますので、当協議会の事務局としても、子ども達が興味・関心をもって講座を受けられるさらに魅力的な施設(科学体験室等)となるよう、しっかりと準備を進めてまいります。

子ども達の科学への興味・関心を深め、神奈川県の科学技術人材育成のために、会員の皆様方のお力が必要です。実験を見たり、科学工作をしたりするときの子ども達のキラキラ輝く瞳のために、ボランティアやスタッフの方と協力しながら事業を進めてまいりますので、今後とも会員の皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



\*\*\*\*\*

**Science Topic** 3月は記録的な温かさで今年は桜の満開が例年より1週間くらい早かったようです。一方、道端に目を向けると、直径1cmにも満たない大きさですが、色とりどりの花が咲いています。スマホの画面ばかり見ていると見落としてしまいます。(写真左から、カラスノエンドウ、カタバミ、オオイヌノフグリ。3月に事務局撮影)





### 協議会の誕生

この協議会の発足は平成18(2006)年です(2月に第1回総会、4月に設立施行)。子ども達の理科離れ、科学技術離れが言われる中、県内の科学や教育に関係している施設や団体が集まり、理科好き・ものづくり好きな子ども達を支援し、科学体験活動の啓発や普及を図っていくことを狙いとして設立されました。当時の青少年センター館長と科学部長が、科学や理科教育等に係る様々な施設を1件1件訪問して趣旨を説明し、賛同をいただいた51会員で発足しました。



### 子ども科学探検隊の開始

協議会としての初めての事業が、現在も人気の高い「子ども科学探検隊」でした。1年目(平成18年)の探検隊は27名が登録し14施設を訪問しました(今年度は42名登録18施設を訪問)。第1回目の「子ども科学探検隊」の様子が、協議会ニュース第2号に次のように紹介されていました。『県内各地から小学校5年生から中学校2年生まで27名が参加し、開講式・科学実験教室を終えた午後「野毛山動物園」を訪れ、キリンの授乳とチンパンジーの食事を見学し、動物の麻酔に使う吹き矢作りを体験してきました。』



### 知事も来館、科学の祭典

会員の皆様からも毎年多くのブース出展をいただき1000名前後の来館者のある「青少年のための科学の祭典」ですが、平成20年度には当時の松沢県知事も来館し、科学工作等を楽しんでもらいました。



### 中高生の科学体験講座

高校生対象の「高校生科学体験講座」を平成20年度に開始しました。平成24年度からは「中高生サイエンスキャリアプログラム」として、中高生を対象と

して会員の皆様の施設等を訪問し、「子ども科学探検隊」よりも高度な内容の科学体験活動を行いながら、将来の進路を考えるキャリア教育の機会としています。



### 青少年のためのロボフェスタ

平成17(2005)年から青少年センターを会場に開始された「青少年のためのロボフェスタ」に、協議会は共催として参加してきました。会員の皆様からもブース出展等をしていただき、現在も継続している大きな事業です。平成25(2013)年には、さがみロボット産業特区や県立高校の宣伝も兼ね、県立神奈川総合産業高校で開催しました。この年は天候にも恵まれ、1日で約6,000名のご来客がありました。



### 子どもサイエンスフェスティバル

「子どもサイエンスフェスティバル」は平成20年2月にプレ事業として行い、平成21年度から新規事業(共催)として始まりました。現在は青少年センターで開催している「科学の祭典」の地域版を、県内4地区で順次開催しています。県立青少年センターと開催地区の教育委員会等が主催、協議会が共催で会員の皆様から出展していただき、実験や科学工作などの体験を通じて、気軽に科学に楽しむ場を提供しています。今年度は、横須賀、相模原、海老名、秦野で開催予定です。



### 「協議会ニュース」メール配信

協議会の発足以来、その事業や青少年センターのイベントを中心に、事務局が年間で平均7号の「協議会ニュース」を発行し、会員の皆様に郵送でお届けしておりました。全ての会員の皆様とのメール環境が整いましたので、平成23年度(第36号)から協議会ニュースのメール配信を開始しました。

## 事務局から

昨年度に引き続き、今年度も村上、高相、山田、宮城の4人が事務局を務めます。1年間よろしく願いいたします。

会員の皆様へのメール連絡は、高相が担当します。先月3月27日にメールで「協議会ニュース115号」と共に「平成30年度協議会会員情報記入用紙」をお送りいたしました。異動等でご担当や所属長が変更になりました会員の皆様はもちろん、変更がない場合もご返信いただきますようお願いいたします。

また、協議会ニュースは、村上が担当します。子ども達の科学体験活動の様子を中心にお届けいたします。ご笑覧ください。(なお、右図は、事務局(科学部)が紅葉坂からの移転をお知らせする「ありがとう紅葉坂」キャンペーンのロゴマークです。)

移転広報の  
ロゴマーク



科学部は移転します



事務局(科学部)移転